

平成29年度事業報告及び 歳入歳出決算の概要

医療施設特別会計



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

1. 赤十字病院グループの理念・基本方針等

赤十字病院グループの理念

私たち赤十字病院グループは、災害医療・救急医療・地域医療等の面から地域に貢献することを通じて、赤十字の理念の実践や赤十字思想の普及啓発に努めてまいります。

9つの基本方針

- 1 質の高い医療の提供
- 2 災害医療・国際活動の充実
- 3 公的医療機関として地域の医療・介護、福祉への関与
- 4 患者満足度の向上
- 5 グループ内の連携強化
- 6 赤十字事業間の連携強化
- 7 働きがいのある職場づくり
- 8 人材の確保と育成
- 9 健全経営の確立

中期目標・中期計画等

赤十字病院グループとしての中期事業計画（H29～H31）の策定

- 中期目標（48項目）
- 中期計画（111項目）
- 数値目標

平成29年度事業計画

2. 平成29年度事業計画（医療事業）

事業環境

- ・医療制度改革に基づく医療と介護の再編
- ・超少子高齢化
- ・地域医療構想への対応
- ・診療報酬改定
- ・大規模地震等自然災害発生への対応

基本的な方向性

事業本部制による総合力を生かした病院運営

- ・「人・物・資金・情報」などグループにおける豊富な経営資源を相互に活用できる仕組みの構築
- ・経営支援体制の強化

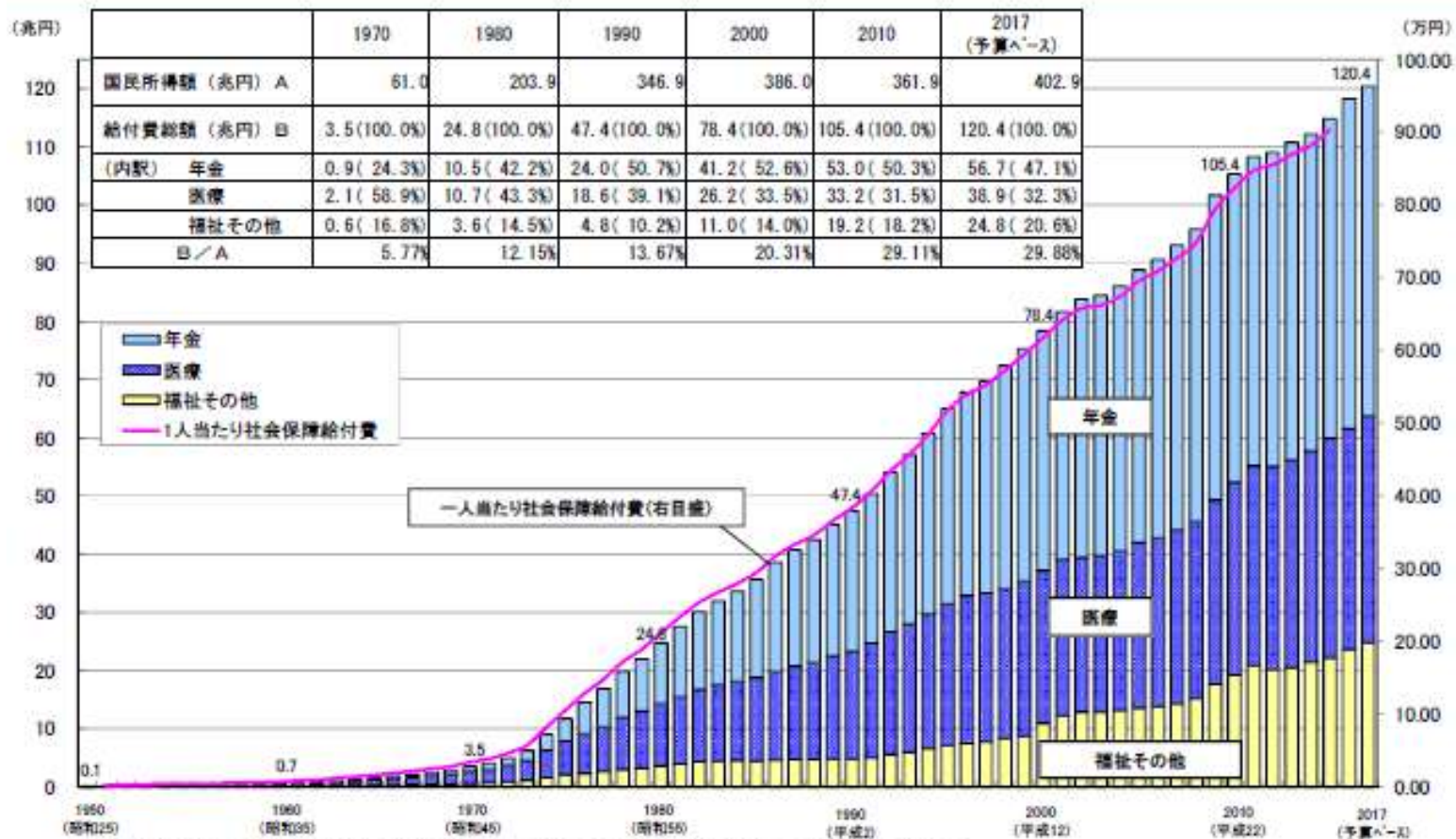
施策

- (1) グループ運営体制の強化による病院運営
- (2) 安全・安心な医療提供体制の充実
- (3) 災害に強い病院（組織体制）づくり
- (4) 地域における医療提供体制の充実
- (5) 患者満足度向上のためのモニタリング調査の実施
- (6) グループ経営資源の有効活用
- (7) 医療施設の経営の健全化



3. 事業環境について(診療報酬改定)

社会保障給付費の推移



資料: 国立社会保障・人口問題研究所「平成27年度社会保障費用統計」、2016年度、2017年度(予算ベース)は厚生労働省推計。
 2017年度の国民所得額は「平成30年度の経済見通しと経済財政運営の基本的態度(平成30年1月22日閣議決定)」
 (注) 図中の数値は、1950,1960,1970,1980,1990,2000及び2010並びに2017年度(予算ベース)の社会保障給付費(兆円)である。

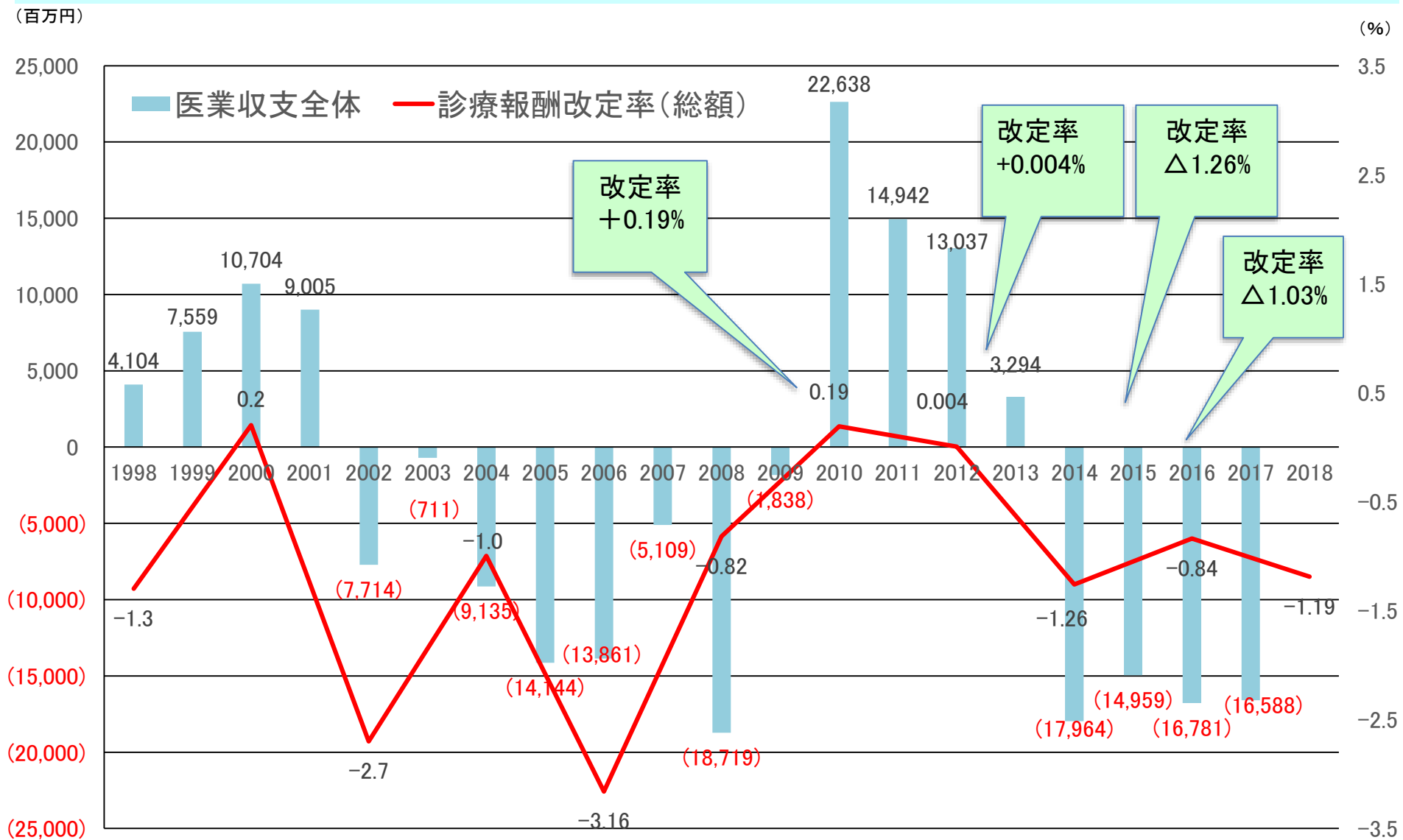
2016(平成28)年度 診療報酬改定

マイナス 1.03%
(社会保障費の伸びを
5,000億円に圧縮)

2018(平成30)年度 診療報酬改定

マイナス 1.19%
(社会保障費の伸びを
5,000億円に圧縮)

これまでの診療報酬改定率



4. 各施策について

(1) グループ運営体制の強化による病院運営

医療事業
推進本部

- ・赤十字グループの経営戦略の策定
- ・赤十字グループの経営資源の有効活用
- ・個々の病院経営に対する支援強化

グループ
運営体制
の推進



赤十字医療施設経営会議委員



赤十字医療施設経営会議

(2) 安全・安心な医療提供体制の充実

達成目標(数値目標)	平成29年度 (計画)	平成29年度 (実績)
医療の質評価制度の充実 急性期 指標の追加／慢性期 指標の新規導入	急性期 3指標 慢性期 3指標	循環器内科領域 3指標 地域包括ケア領域 4指標
医療安全管理者の養成 (新規医療安全管理者数)	90名の新規養成 (既養成者数 577名)	93名の新規養成 (計 670名)



医療安全管理者研修

循環器内科領域

- ①急性心筋梗塞で入院した患者への入院当日のカテーテル治療実施率
- ②心不全で入院中の患者への降圧薬の処方率
- ③待機のカテーテル治療術の入院中に発症した脳梗塞

地域包括ケア領域

- ①客観的指標で患者の日常生活動作状態を把握しているか
- ②多職種カンファレンス(リハビリ以外に2職種以上)にて、リハビリテーションの内容や頻度について入院中に適宜再検討されているか
- ③入院時に身体抑制が行われていた患者の入院後の解除率
- ④院外スタッフを加えた多職種(5職種以上)による退院カンファレンスの実施率

(3) 災害に強い病院(組織体制)づくり

達成目標(数値目標)	平成29年度 (計画)	平成29年度 (実績)
各施設におけるBCP(事業継続計画)の策定 (策定施設数)	年度当初の施設数以上 (策定済施設数 24施設)	新規 16施設 (計 40施設)
災害時病院支援体制の整備	支援マニュアル 策定の推進	病院業務支援検討 部会の設置準備



石巻赤十字病院におけるBCPに基づく訓練



熊本赤十字病院に到着した支援チーム

BCP(事業継続計画)とは、災害発生時等の緊急事態において、事業の継続及び早期復旧を可能とするために、緊急時における事業継続のための方法等を取り決めておく計画のこと。

- ・平成29年7月九州北部豪雨災害
 - アセスメントチームの派遣
 - 救護班の派遣：6班（福岡県、大分県）
 - こころのケアチームの派遣：125名（福岡県）
 - 日赤災害医療コーディネーターや連絡調整員による各県災害対策本部での活動調整



避難所に向かう救護班（福岡県）



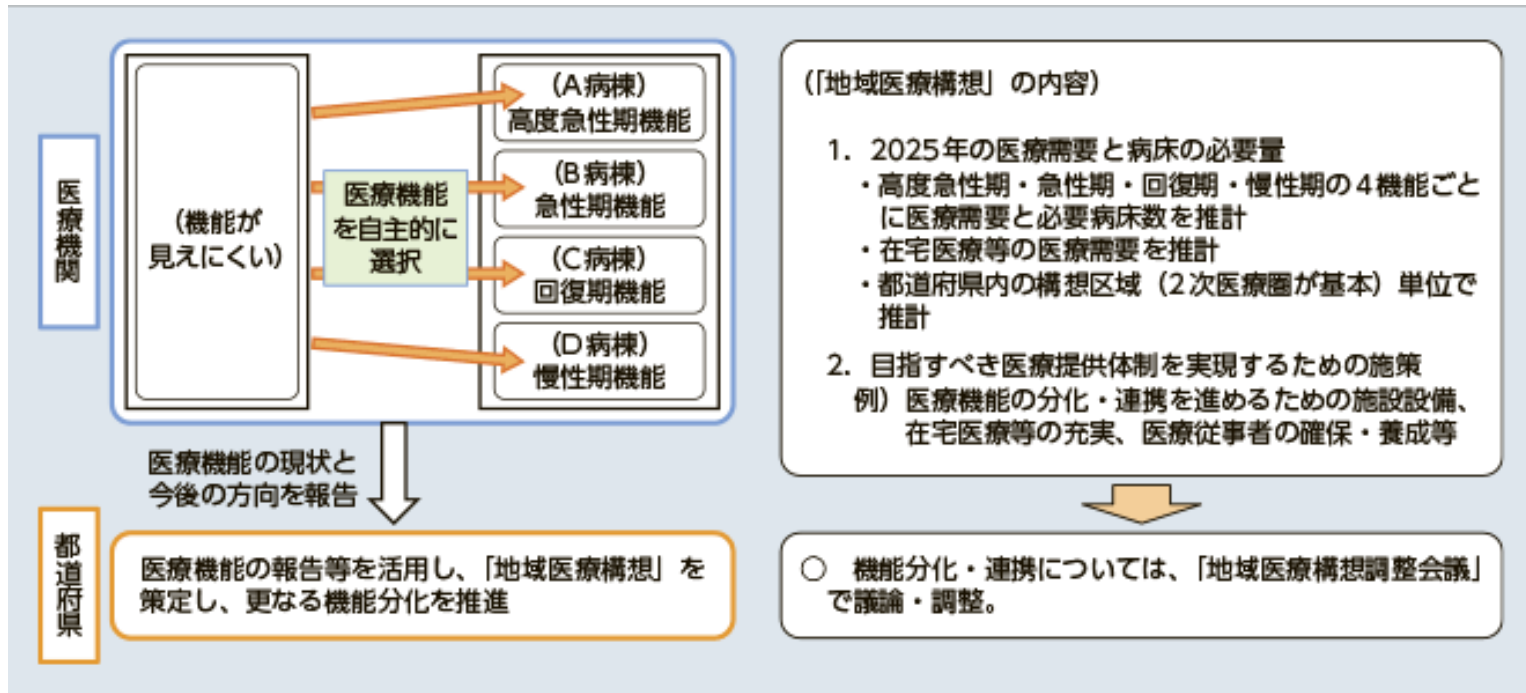
救護班による巡回診療（福岡県）



避難所での健康相談（大分県）

(4) 地域における医療提供体制の充実

達成目標(数値目標)	平成29年度 (計画)	平成29年度 (実績)
各施設における公的医療機関等2025プランの策定(策定済施設数)	92施設	92施設



達成目標(数値目標)	平成29年度(計画)	平成29年度(実績)
特定行為にかかる看護師の研修推進	研修実施のための厚生労働省の指定	13施設 (※研修可能な特定行為区分は施設によって異なること)

【研修推進の目的】

地域包括ケアを念頭に置き、患者の入院期間のみならず退院後の在宅療養を支える。

日本赤十字社で研修可能な特定行為区分	研修を修了した看護師が実施可能な特定行為
呼吸器（長期呼吸療法に係るもの）関連	気管カニューレの交換
創傷管理関連	褥瘡又は慢性創傷の血流のない壊死組織の除去
	創傷に対する陰圧閉鎖療法
栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連	持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整
	脱水症状に対する輸液による補正
感染に係る薬剤投与関連	感染徴候がある者に対する薬剤の臨時的投与
血糖コントロールに係る薬剤投与関連	インスリンの投与量の調整

▶ 研修を受けるとこのようになります 特定行為の実施の流れ (脱水を繰り返すAさんの例)

研修受講前

医師

Aさんを診察後、脱水症状があれば連絡するよう看護師に指示。

看護師

Aさんを観察し、脱水の可能性を疑う。

看護師

医師にAさんの状態を報告。

医師

医師から看護師に点滴を実施するよう指示。

看護師

点滴を実施。

看護師

医師に結果を報告。

研修受講後

医師

Aさんを診察後、手順書により脱水症状があれば点滴を実施するよう看護師に指示。

看護師

Aさんを観察し、脱水の可能性を疑う。

手順書に示された

病状の範囲内

手順書によりタイムリーに

点滴を実施

医師に結果を報告

特定行為

病状の範囲外

医師に報告。

出典:「厚生労働リーフレット・「特定行為に関する看護師の研修制度が始まります」(医療関係者の皆さまへ)」

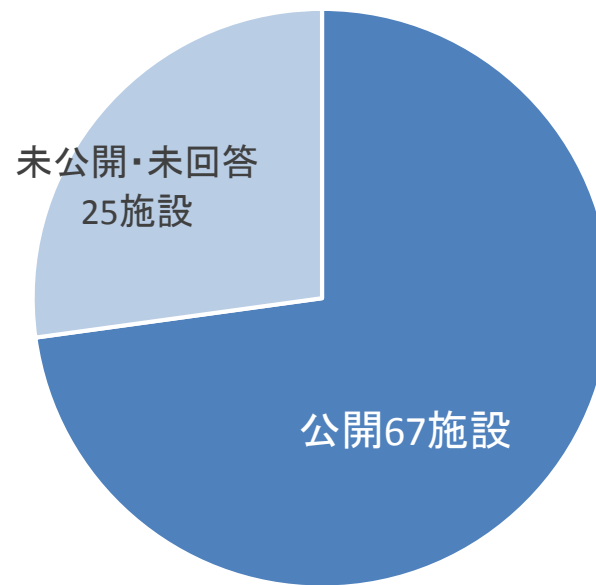
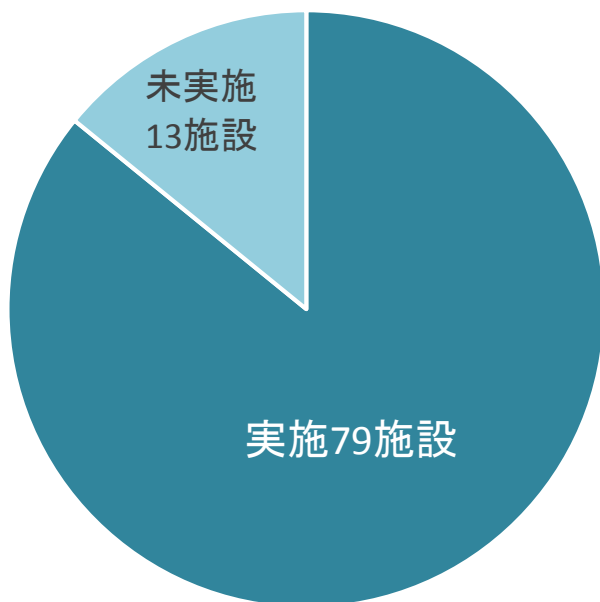


(5) 患者満足度向上のためのモニタリング調査の実施

達成目標(数値目標)	平成29年度 (計画)	平成29年度 (実績)
赤十字共通の評価指標による 患者満足度調査の実施	各施設における患者満足度 調査の実施状況把握	患者満足度調査実施施設 79施設／92施設
		患者満足度調査実施結果公開施設 67施設／92施設

患者満足度調査実施施設

患者満足度調査実施結果公開施設



(6) グループ経営資源の有効活用

ア. 人材の確保と育成

達成目標(数値目標)	平成29年度 (計画)	平成29年度 (実績)
臨床研修医の確保(定員充足率)	90.0%	89.7%
看護師の確保(定員充足率)	95.0%	98.6%
看護専門学生の確保(定員充足率)	100.0%	91.8%
質の高い病院事務職員の育成	育成システムの構築	キャリアアップガイドライン 原案策定



グループ内病院間派遣支援

	派遣元 病院数	派遣先 病院数	派遣人数
医師	21病院	9病院	93人
看護師	13病院	12病院	29人

イ. 購買支援

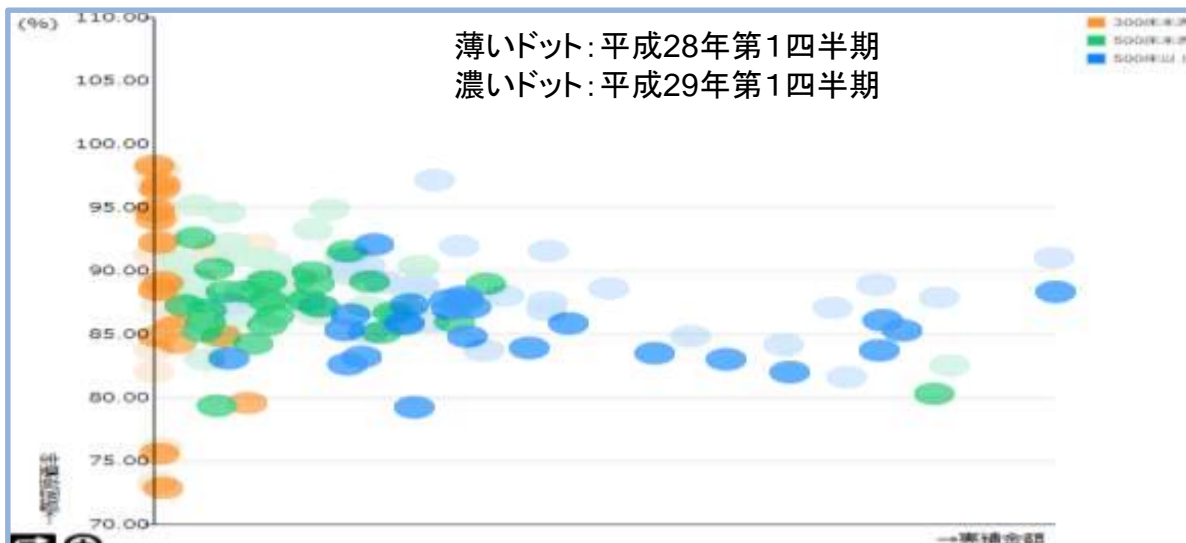
【診療材料・医薬品】

品目	参加施設	削減効果額(概算)
サージカルマスク(PB)	66施設	1,700万円
プラスチックエプロン	64施設	4,500万円
消毒綿(PB)	75施設	3,300万円
ナースシューズ	43施設	600万円
シリンジ	21施設	120万円
輸液ポンプ	16施設	330万円
テルミサルタン錠(配合錠を含む) (ミカルデイス錠)	25施設	1,200万円
エスエーワン配合OD錠 (ティーエスワン配合OD錠)	15施設	1,600万円
合計		約1億3千万円

【購入金額のベンチマーク活用】

施設数 (※本部調査による回答施設数)	医療機器等数	削減効果額
35施設	161台	約2億円

	平成28年度 第1四半期	平成29年度 第1四半期	減少率
医療材料 償還原価率※	87.9%	85.5%	2.4%



※償還原価率＝
 税抜購入金額(償還品のみ)
 ÷ 償還金額

ウ. 資金の有効活用

(1) 銀行等借入金の利息による資金の外部流出抑制と支払利息の軽減を目的とした内部資金への借り換え及び施設整備資金を対象に試行導入



⇒ 平成29年度：757万円の経済効果(支払利息の軽減等)

(2) 病院建物建設資金及び病院財政調整事業資金の実績

	貸付利率	平成29年度新規貸付施設数	平成29年度新規貸付金額
病院建物建設資金	0.01%	18施設	80億2,257万円
病院財政調整事業資金	無利子	45施設	89億1,258万円

(7) 医療施設の経営の健全化

- ◆ 地域医療構想を踏まえた各赤十字病院の機能・役割の見直し

(短期)
病床機能の転換・ダウンサイジングなど

(中・長期)
地域における機能・役割の明確化

各医療施設への経営改善支援

支援病院、重点支援病院

- ・本部職員を現地に派遣し、経営改善支援を実行
- ・物品購入、職員採用の本部支援

ブロック担当制の導入

- ・支援病院及び重点支援病院以外の赤字病院に対し、ブロック担当者による経営改善支援の実施

取り組みの一部

- ◆ 集患対策(地域医療連携の推進、救急患者の積極的受入れなど)
- ◆ 単価アップ対策(施設基準及び各種加算の取得、診療密度の高い患者獲得など)
- ◆ 費用削減の取り組み
 - ・固定費を下げる取り組み 適正な人員配置など
 - ・変動費を下げる取り組み 材料費の抑制、購買交渉力強化、委託費の見直し

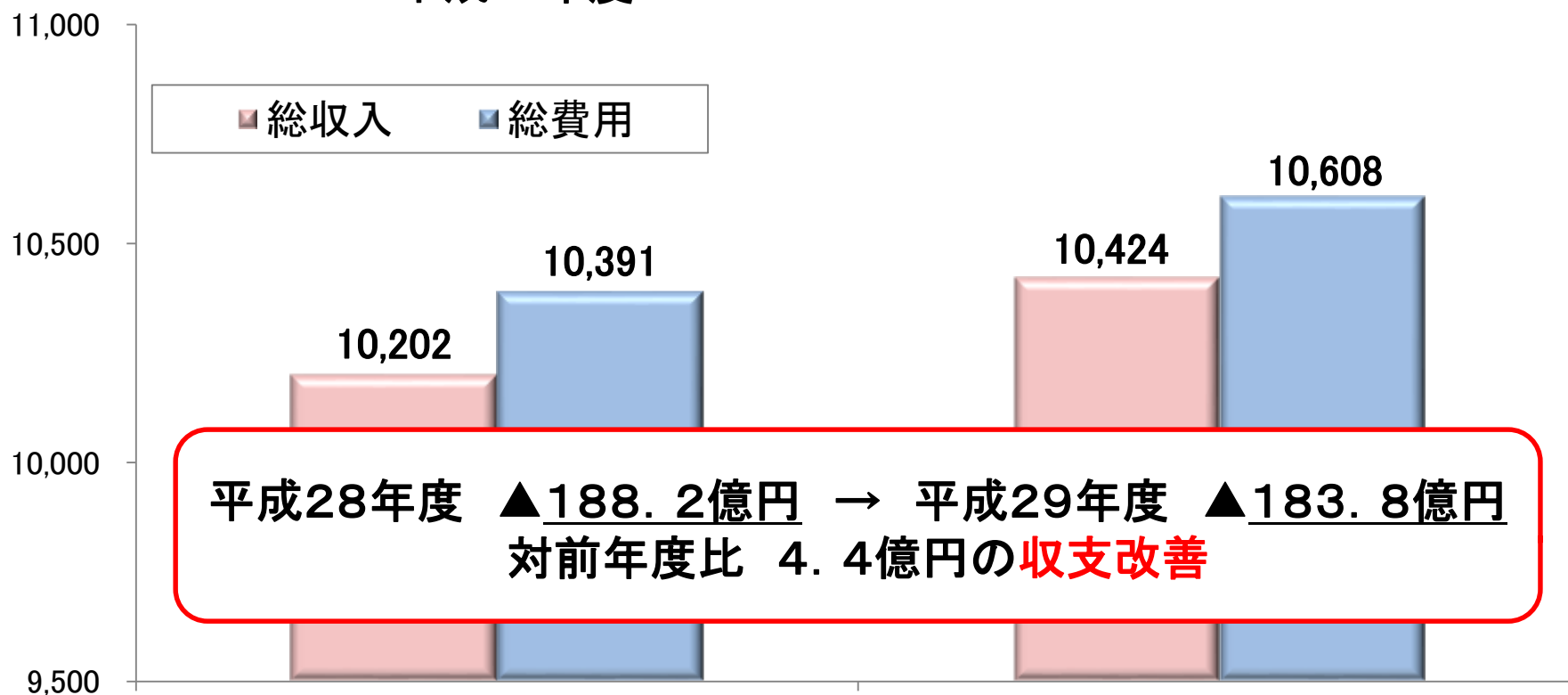
5. 平成29年度医療施設特別会計 決算概要

(1) 平成29年度の収支状況

(単位: 億円)

平成28年度

平成29年度



(注) 1億円未満は切り捨てているため、総収入マイナス総費用は収支差引額と一致しません

(2) 平成29年度の対前年度収支状況 (本社勘定・施設勘定別)

(単位:億円)

		平成28年度	平成29年度	増 減
医業収支	本社勘定	△2.4	△4.7	△2.3
	施設勘定	△165.3	△161.1	+4.2
	計	△167.8	△165.8	+1.9
減価償却前 医業収支	本社勘定	△2.4	△4.7	△2.2
	施設勘定	453.6	448.7	△4.9
	計	451.1	443.9	△7.2
経常収支	本社勘定	△9.8	△16.8	△7.0
	施設勘定	△88.8	△108.7	△19.9
	計	△98.7	△125.6	△26.9
総収支	本社勘定	△9.8	△16.8	△6.9
	施設勘定	△178.3	△166.9	+11.4
	計	△188.2	△183.8	+4.4

(注) 0.1億円未満は切り捨てているため、計と増減は内訳と一致しない場合があります

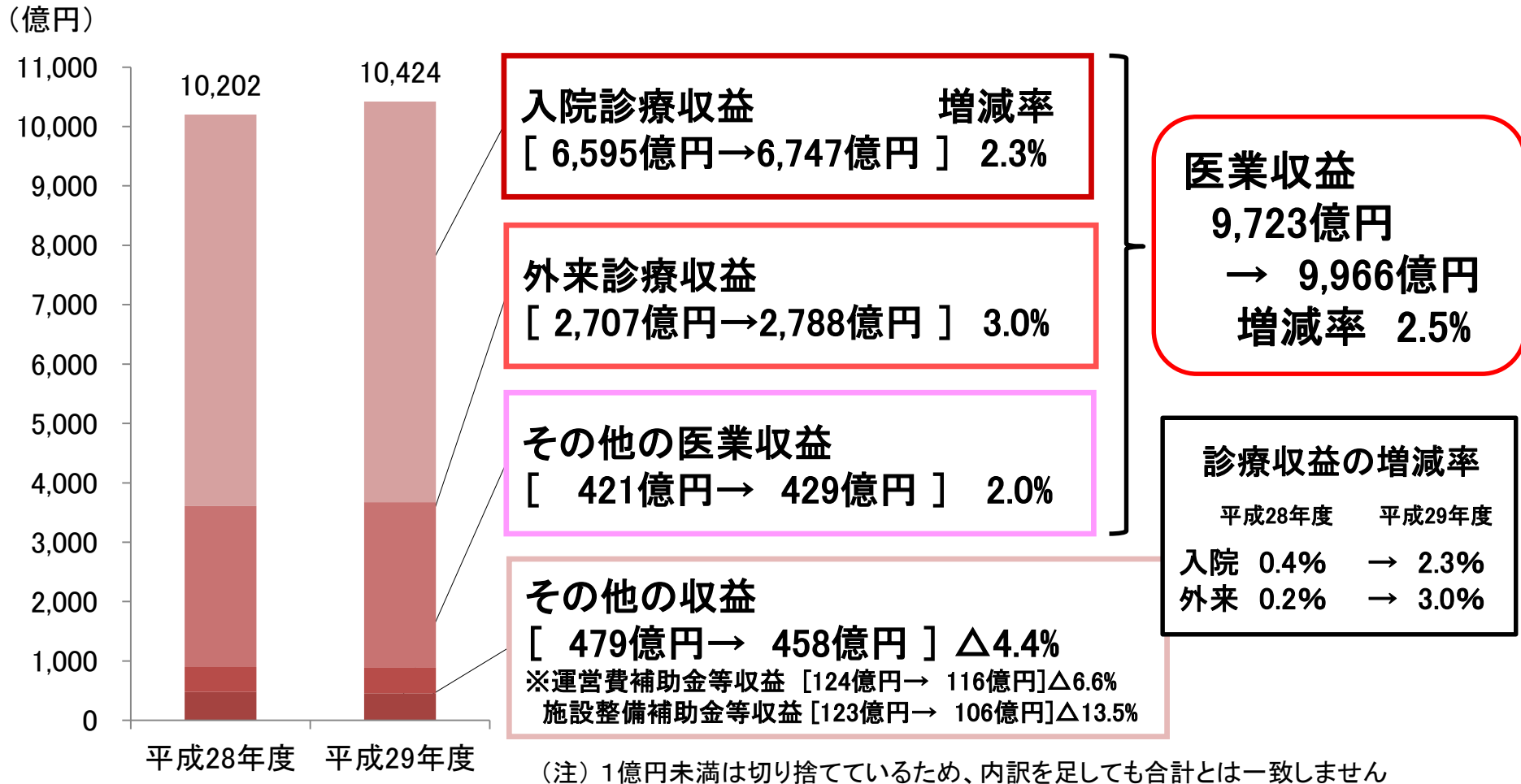
(3) 平成29年度の評価別対前年度収支状況 (施設勘定)

(単位:億円)

		(収益↑利益↑) 増収増益	(収益↓利益↑) 減収増益	(収益↑利益↓) 増収減益	(収益↓利益↓) 減収減益	合計
医業収支	増減額	94.1	2.3	△ 48.8	△ 43.3	4.2
	施設数	39	3	23	25	90
減価償却前 医業収支	増減額	92.6	1.1	△ 49.8	△ 48.8	△ 4.9
	施設数	36	3	26	25	90
経常収支	増減額	81.4	2.5	△ 58.7	△ 45.2	△ 19.9
	施設数	36	4	24	26	90
総収支	増減額	102.8	19.2	△ 63.0	△ 47.6	11.4
	施設数	33	7	25	25	90

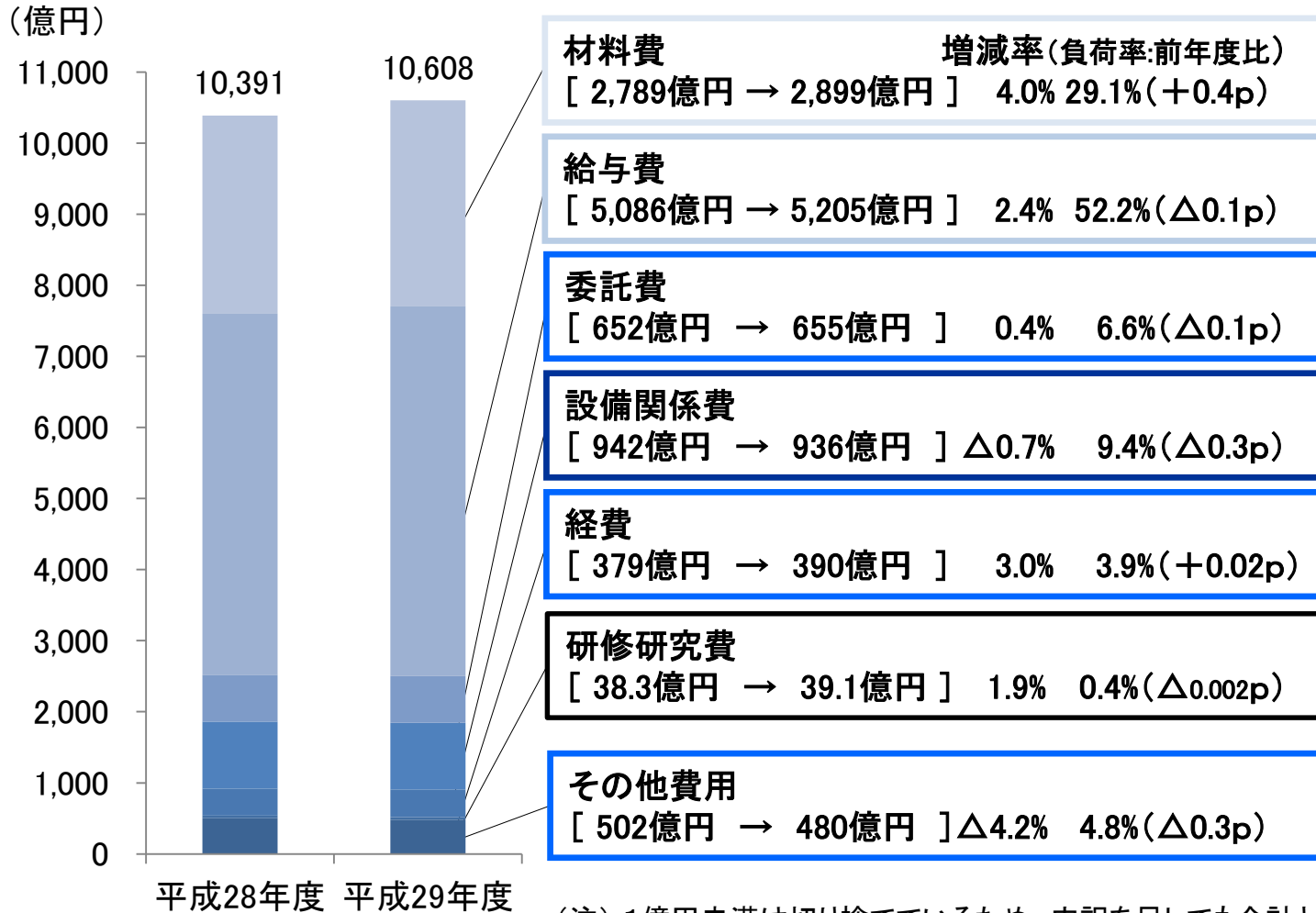
(注) 0.1億円未満は切り捨てているため、計と増減は内訳と一致しない場合があります

6. 医療施設特別会計 収益的収入のあらまし



	平成28年度		平成29年度	増減額	増減率
収益的収入合計	10,202億円	→	10,424億円	221億円	2.2%

7. 医療施設特別会計 収益的支出のあらまし



医業費用
 9,889億円
 →10,127億円

増減率 2.4%
負荷率101.6%
 (Δ0.1p)

給与費の増減率

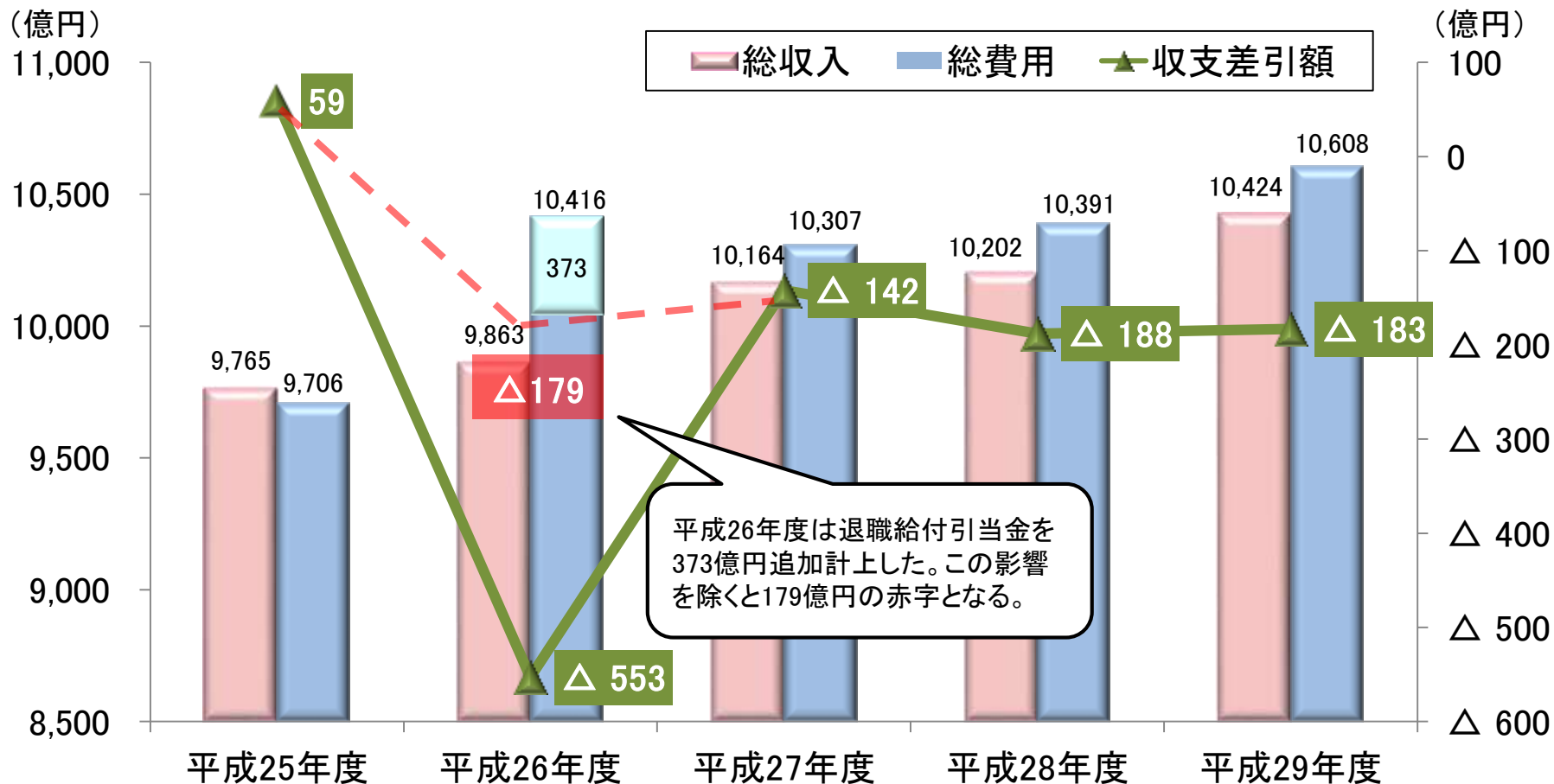
平成28年度	平成29年度
0.9%	→ 2.4%

(注) 1億円未満は切り捨てているため、内訳を足しても合計とは一致しません

	平成28年度		平成29年度	増減額	増減率
収益的支出合計	10,391億円	→	10,608億円	217億円	2.1%
収支差引額	Δ188億円	→	Δ183億円	4億円	

8. 収支の推移

(注) 1億円未満は切り捨てているため、総収入マイナス総費用は収支差引額と一致しない場合があります。



平成26年度は退職給付引当金を373億円追加計上した。この影響を除くと179億円の赤字となる。

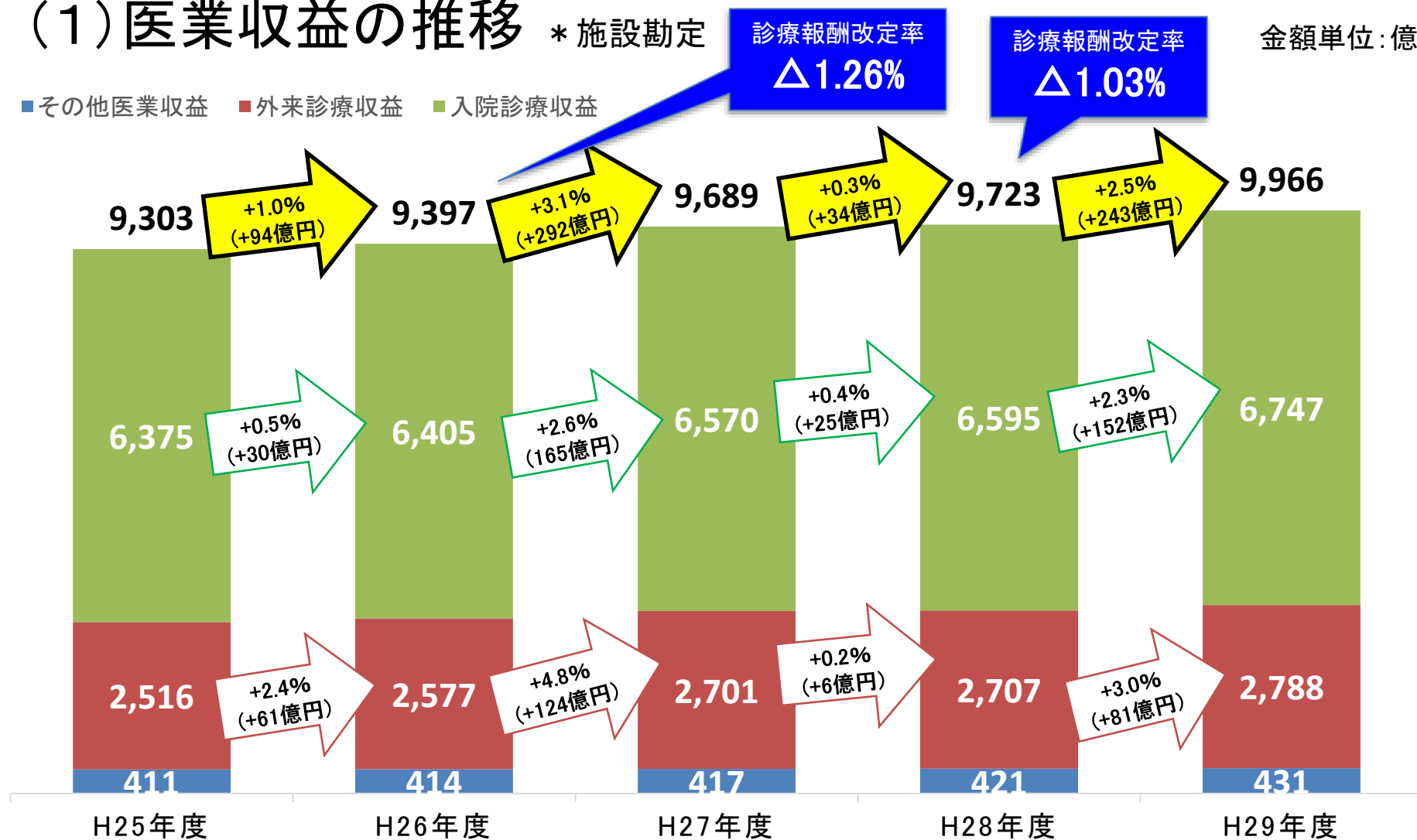
	平成28年度	→	平成29年度
収支差引額	△188億円		△183億円
黒字施設	29施設		30施設
赤字施設	61施設		60施設

9. 医業収支の状況

(1) 医業収益の推移 * 施設勘定

金額単位：億円

■ その他医業収益 ■ 外来診療収益 ■ 入院診療収益

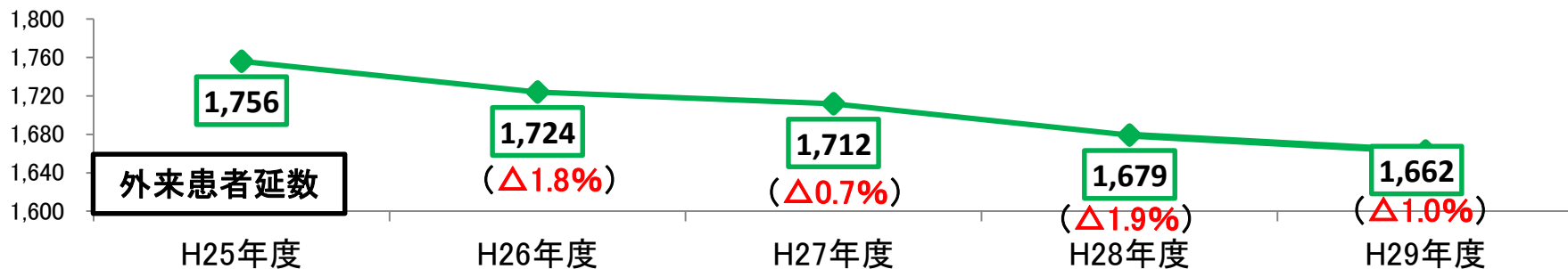
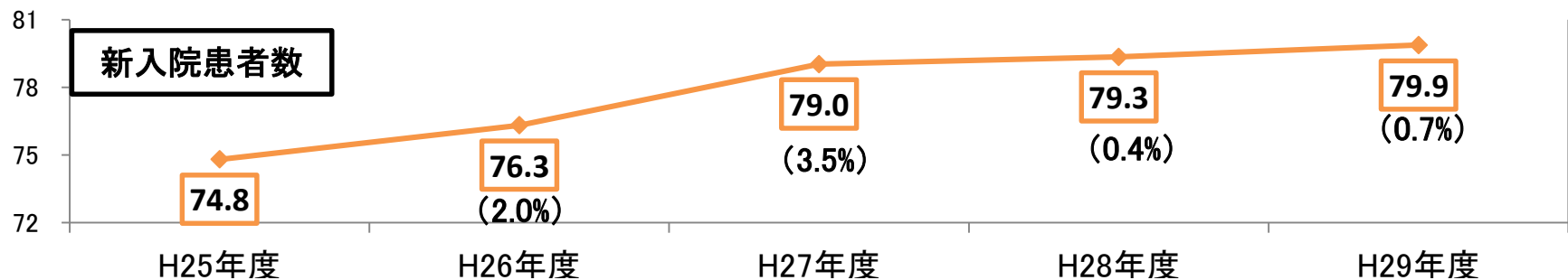
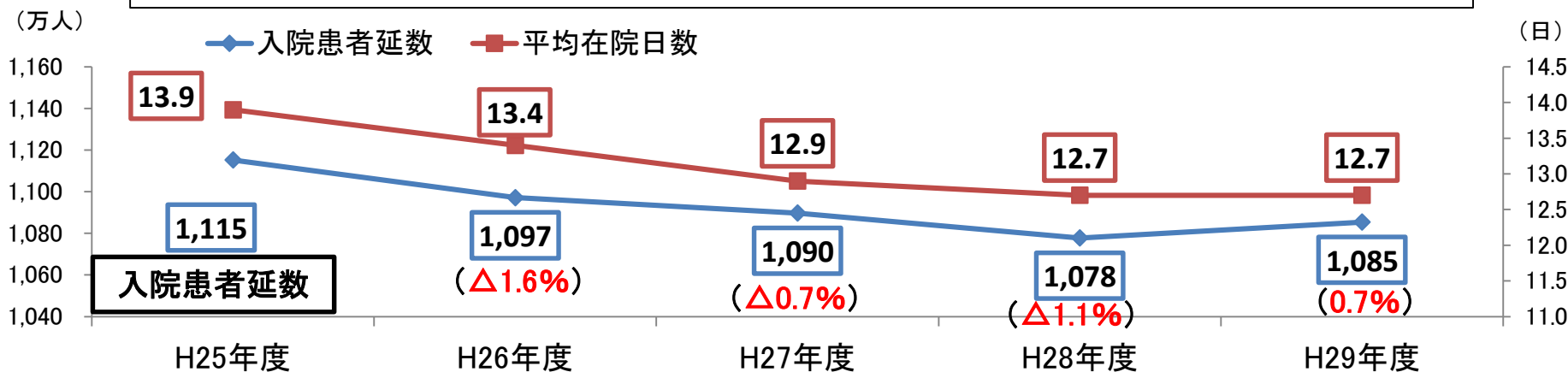


(注) 1億円未満は切り捨てているため、内訳と合計は一致しない場合があります

(2) 患者数等の推移

(注) 平成29年度数値は速報値のため変更となる可能性があります

入院患者延数(H29年度) 10,853,888人 【前年度比 75,886人増、**0.7%増**】
 外来患者延数(H29年度) 16,624,993人 【前年度比 166,370人減、**1.0%減**】

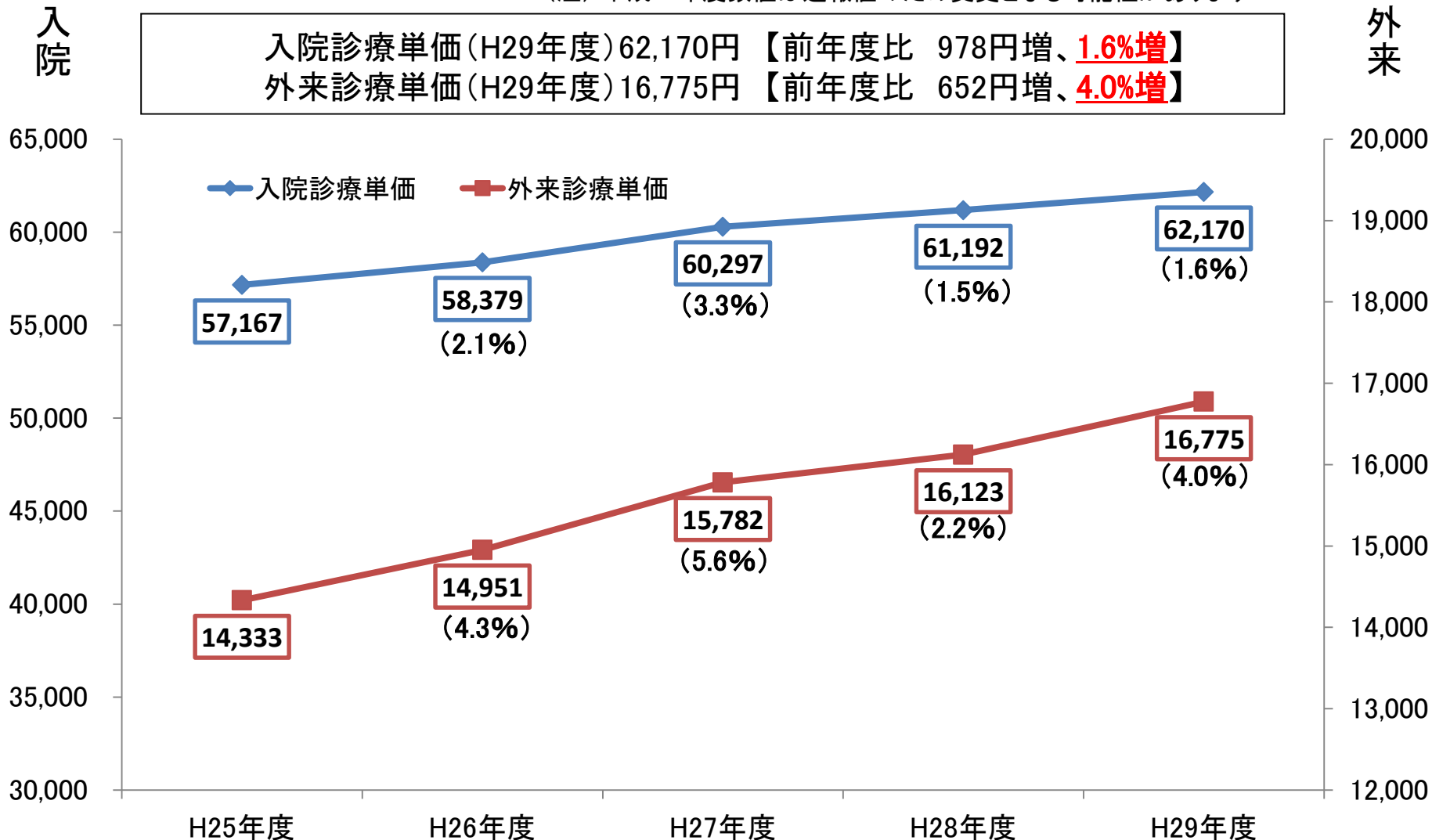


(3) 診療単価の推移

単位：円／人

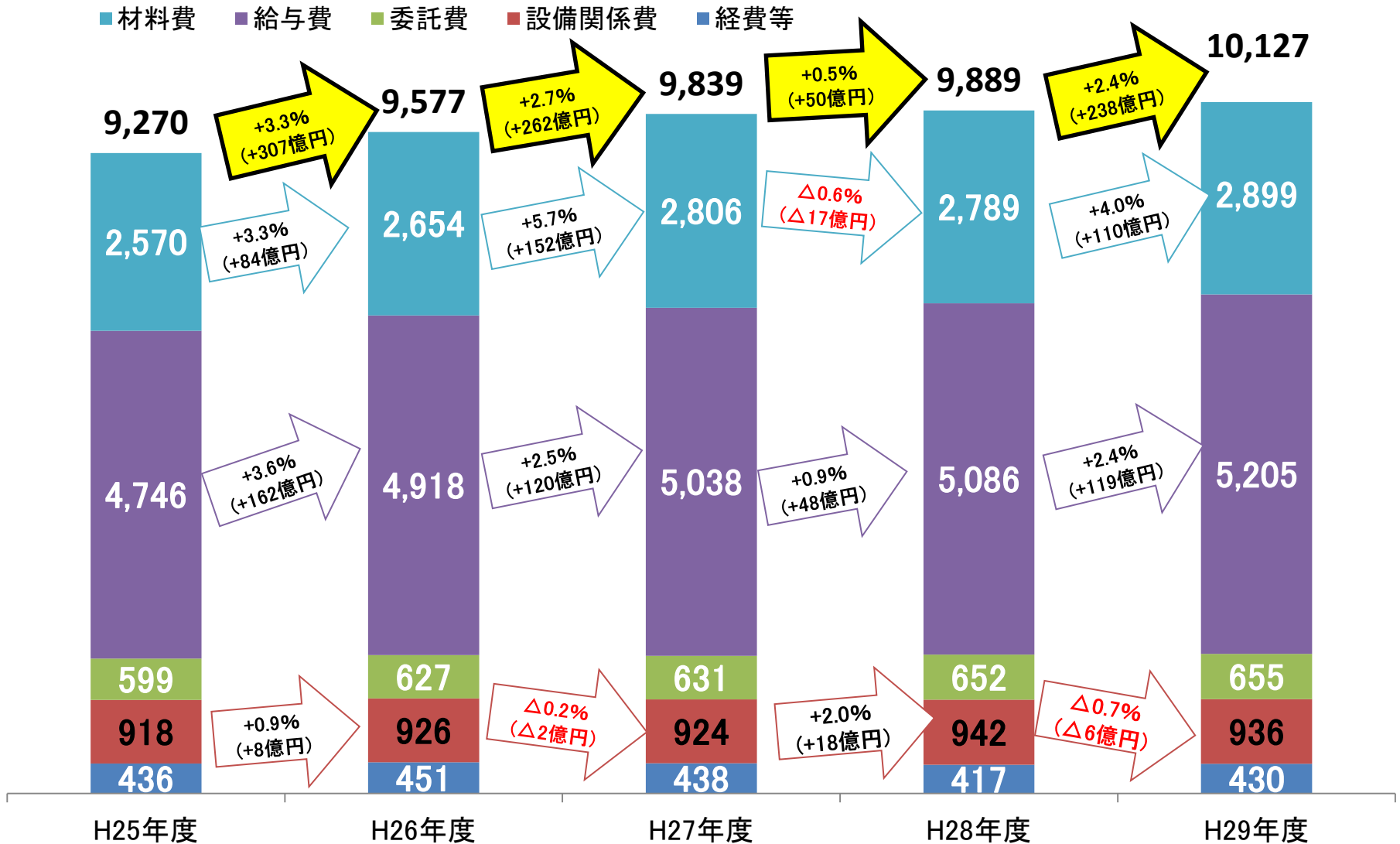
(注) 平成29年度数値は速報値のため変更となる可能性があります

入院診療単価 (H29年度) 62,170円 【前年度比 978円増、**1.6%増**】
 外来診療単価 (H29年度) 16,775円 【前年度比 652円増、**4.0%増**】



(4) 医業費用の推移 * 施設勘定

金額単位：億円



(注) 1億円未満は切り捨てているため、内訳と合計は一致しない場合があります

(5) 主な高額医薬品・診療材料の概要

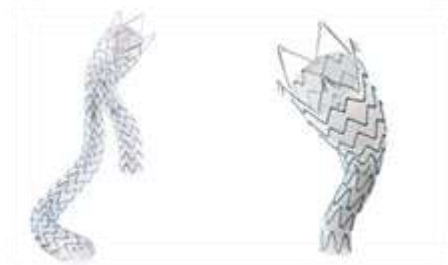
① 医薬品(注射薬)

- ・オプジーボ点滴静注100mg10ml(薬価 278,029円)
平成29年度使用数 1,820瓶 (約5億円)
- ・キイトルーダ点滴静注100mg 4ml(薬価 364,600円)
平成29年度使用数 1,908瓶 (約7億円)



② 診療材料

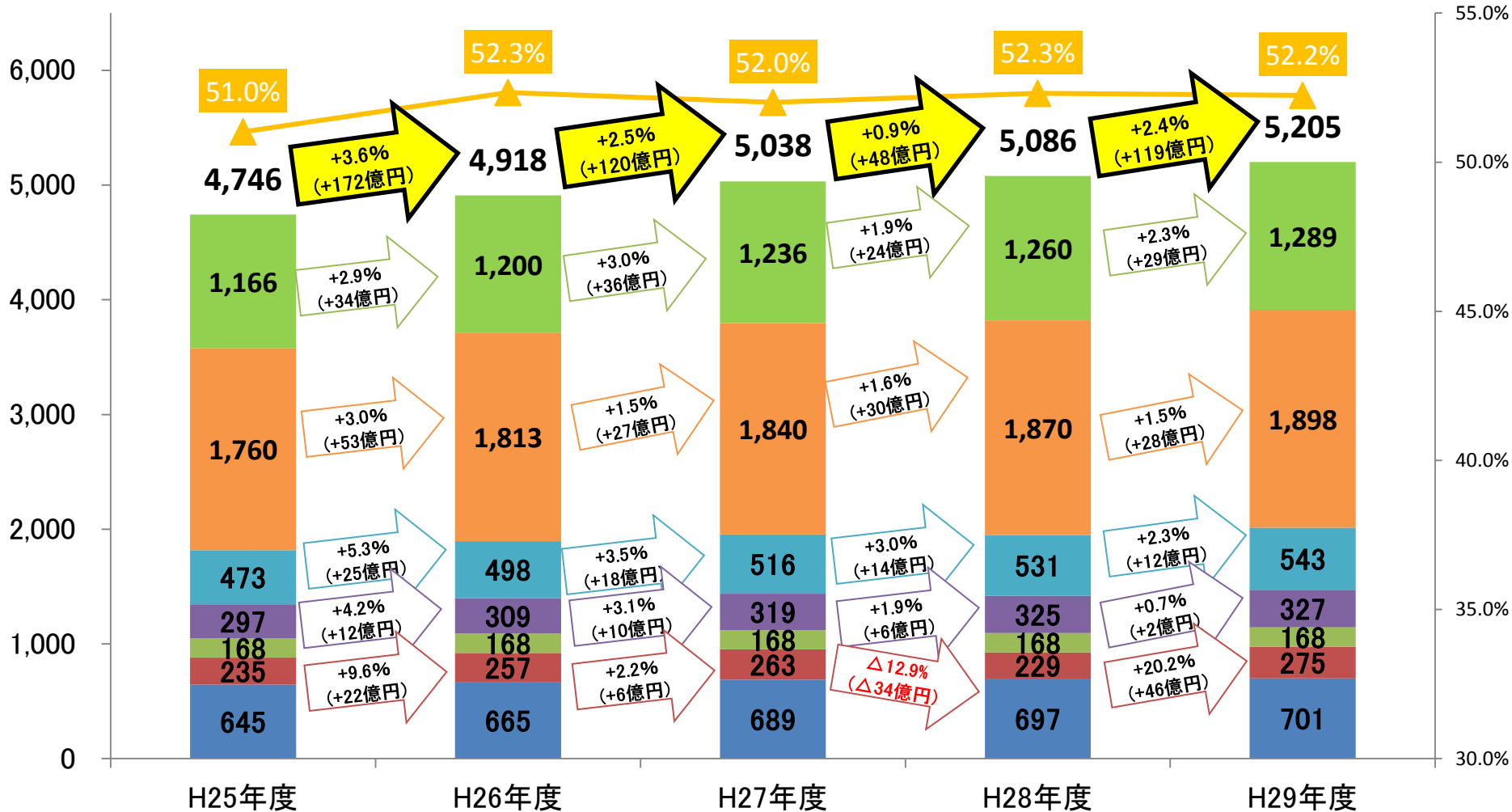
- ・腹部大動脈用ステントグラフト(償還価格 1,300,000円)
平成29年度使用数 684本(約9億円)
- ・胸部大動脈用ステントグラフト(償還価格 1,400,000円)
平成29年度使用数 534本(約7億円)
- ・バルーン拡張型人工生体弁セット(償還価格 4,430,000円)
平成29年度使用数 158セット(約7億円)



(注)各月の退院患者データを元に算定実績の集計を表しております。

(6) 給与費の推移 * 施設勘定

- 法定福利費等
- 退職給付引当金繰入額
- その他職員費
- 事務職員費
- 医療技術職員費
- 看護職員費
- 医療職員費
- ▲ 給与費負担率

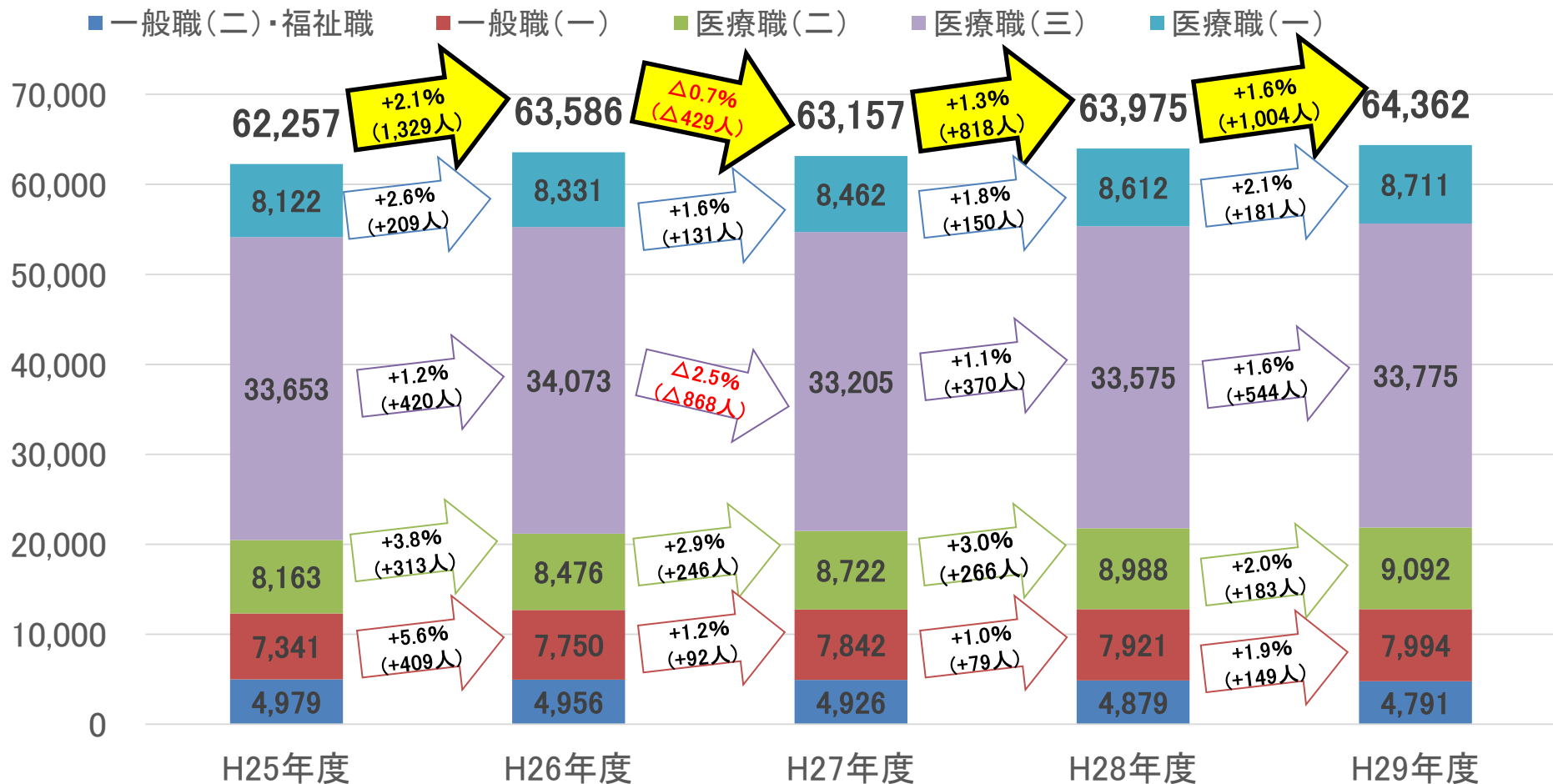


(注) 1億円未満は切り捨てているため、内訳と合計は一致しない場合があります

(7) 職員数の推移 (各年度3月31日現在)

※平成29年度数値は速報値のため変更となる可能性があること※

単位：人

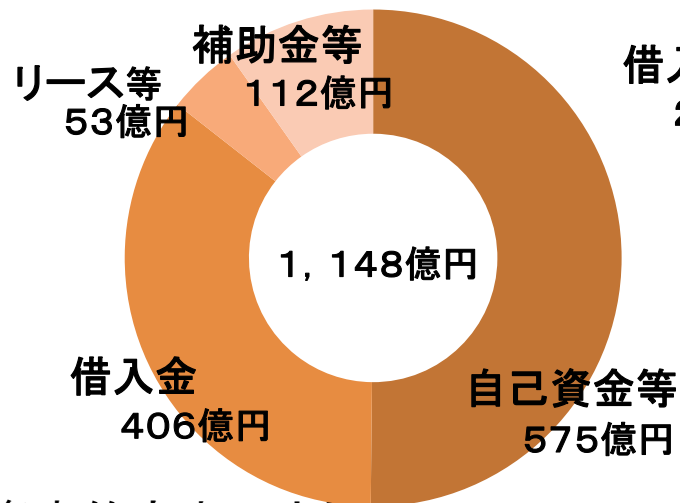


(注) 病院部門職員の換算数を表しております

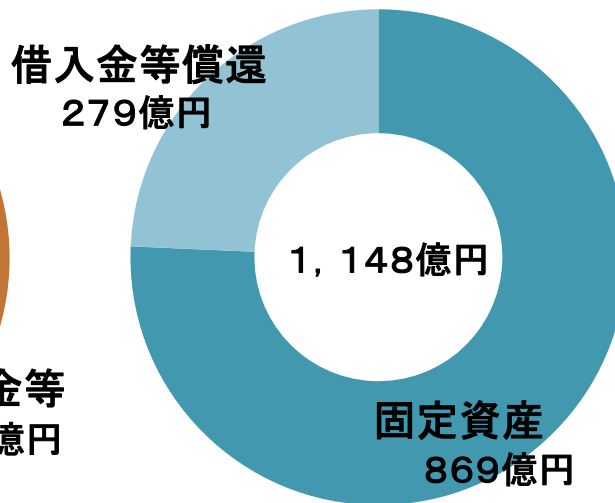
(注) 平成29年度数値は速報値のため変更となる可能性があります

10. 医療施設特別会計 資本的収支のあらまし

【収入】



【支出】



前橋赤十字病院

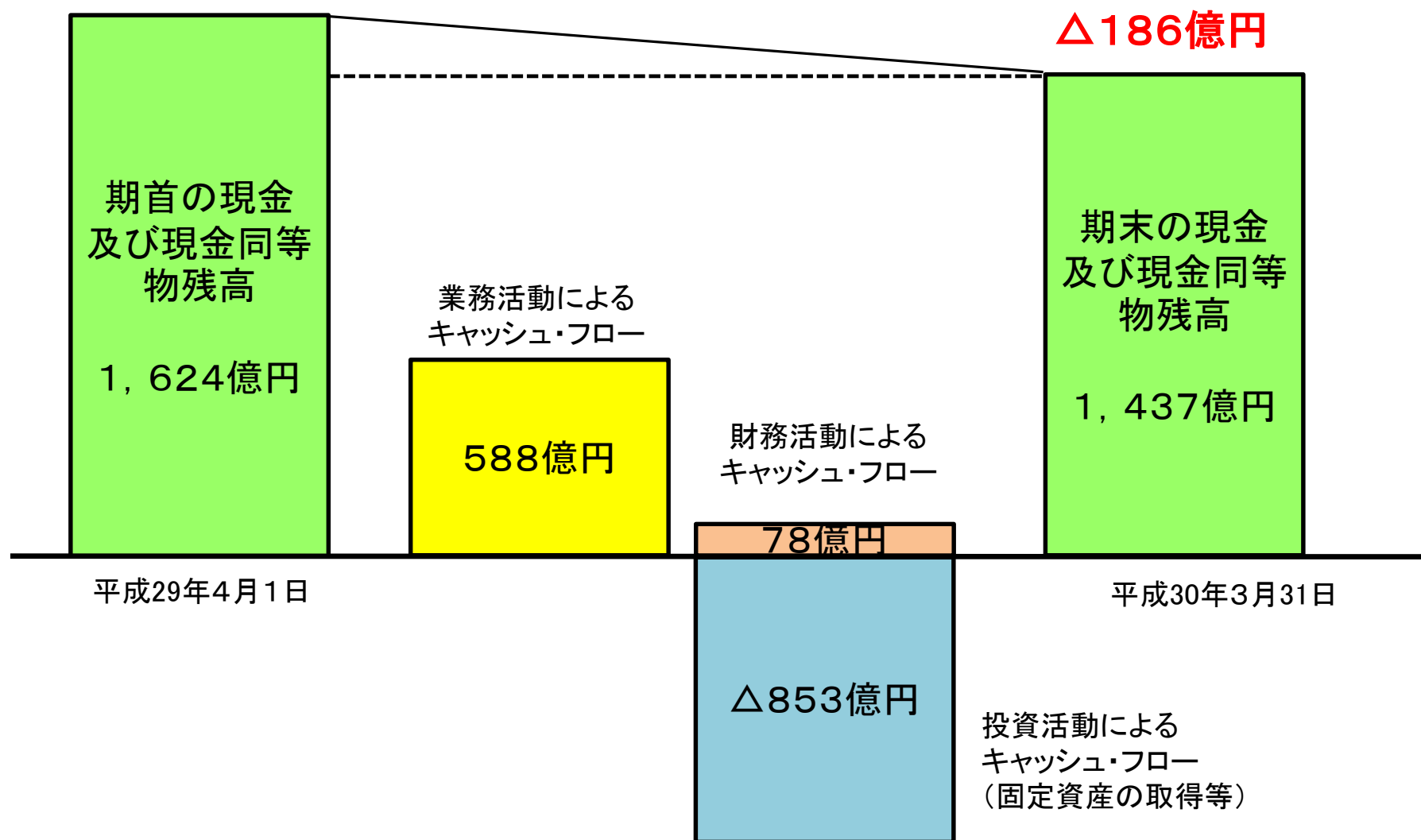


松山赤十字病院

資本的支出の内訳 (注) 1億円未満は切り捨てているため、内訳を足しても合計とは一致しません

固定資産(内訳)	金額		借入金等償還(内訳)	金額
建物・建物付属設備等	121億円	有形固定資産 合計405億円	借入金償還	219億円
医療用器械備品等	279億円		リース未払金支払	53億円
車両等	1.4億円		その他負債返済	5億円
土地	4億円		合計 279億円	
建設仮勘定	412億円		主な建築： 前橋、松山、長崎、 徳島、福島 等	
無形固定資産	48億円			
合計 869億円				

11. キャッシュ・フロー



(注) 1億円未満は切り捨てているため、期中のキャッシュ・フローの増減内訳と現金及び現金同等物の増加額は一致しません。

12. 平成29年度の決算総括

経常収支の評価

平成31年度目標
経常収支
黒字化

平成30年度目標
経常収支
▲33億円

平成29年度目標
経常収支
▲65億円

引き続き、平成31年度
経常収支黒字化を目指す

平成29年度決算
経常収益 1兆408億円
経常費用 1兆534億円
経常収支 ▲125億円

前年度に対する評価
増収(+217億円)減益(▲26億円)

当初予算に対する評価
減収(▲19億円)増益(+2億円)

平成31年度黒字化目標に対する評価
未達(▲60億円)

13. 今後の方向性・課題

項目	目標	これまでの取り組み	今後の方向性・課題
安心・安全な医療提供体制の充実	良質で安全な医療の提供	・各種医療安全、感染管理に関する研修の推進	・医療安全対策及び感染管理に関する人材育成の推進 ・医療事故防止活動の積極的な展開
災害に強い病院づくり	災害医療の拠点としての機能の充実	・BCP(事業継続計画)策定の推進	・全ての赤十字医療施設でBCP(事業継続計画)を策定
地域における医療提供体制の充実	赤十字の特色を生かした医療の提供	・各地域における医療提供体制の検討(公的医療機関等2025プランの策定)	・公的医療機関等2025プラン及び地域医療構想を踏まえた病院診療機能の再評価(診療機能の転換・統合・再編の検討含む)
グループ経営資源の有効活用	グループ運営体制に基づく経営資源の有効活用	・経営に精通した職員の育成 ・購買支援事業の実施 ・グループ内資金の有効活用等	・事務職員版キャリアアップガイドラインの運用 ・医療材料等共同購入の拡大 ・データベース基盤整備
医療施設の経営の健全化	平成31年度末における経常収支の黒字化	・経常収支の1/3の改善(平成29年度)を目指した取り組み	・平成31年度末における経常収支の黒字化に向け、より具体的な指標の設定と目標達成のための医療施設への指導